

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

認定こども園 きつずこくらみなみ

1、 本園の教育目標

遊びを通して

- 自分の好きな遊びを見つけて友達としっかりと遊ぶ子ども
- 自分のことが楽しく話ができる子ども
- 自分の思いを楽しく表現できる子ども
- 人の話を聞くことができ、考えられる子ども
- 自分からあいさつができる子ども

2、本年度重点的に取り組む目標・計画

- 昨年の反省を生かし、職員一丸となり保育や行事の有り方を共通理解のもと一人一人の個性を理解し、子ども主体の保育を考え計画する。
- 園（保育者）が行事を通し、保護者も子どもたちと共に過ごすことで園への安心感や子育ての楽しさを感じる行事へと進化し見直していく。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	保育について	個人やグループや縦割りでの小さな集団での保育の中で一人ひとりにあった指導ができた。乳児、乳幼児、幼児と区分し縦割りの保育が自然と取り組めた。ICTを取り入れ子どもたちとの時間がとれ余裕をもって子どもたちと関わりが持てた。
2	行事への 取り組み (保護者理解)	保育参観を「保育参加日」したり、運動会、発表会の名前を変更したり「観る」ではなく「参加する」行事へと変化していている。変化に戸惑う保護者もいるので引き続き園での取り組みを配信していく必要性を感じた。保護者会（サポーター）など気軽に園の行事に参加することで保護者の輪も広がりやすい環境を整えた。
3	教師の保育の質 の向上	今までの行事や保育が変わりつつある中で職員のスキルアップ（研修）機会も多く保育にいかせた。職員同士の保育の質が変わりつつある。コロナ以外の感染症により、健康の大切さを改めて感じられ感染対策・自己管理の徹底も図れた。

4、幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

- 時代と共に変わりつつ生活スタイルや保育の流れを職員が共通理解を持ち、新しい園のスタイルを確立していく土台作りができたと同時に共通理解、同じ方向性をもって進んでいくことの大切さを感じた。
- 自己点検・自己評価に取り組むことで自ら保育を振り返り、来年度の保育・行事に確実に生かしていく。保護者には新しい園行事の関わり方に理解と協力を得て、共に成長し合っていきたい。

5、今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	衛生・安全管理	感染症対策・地震・水害・避難・犯罪（事件）などに備え、危機意識を高め向上を図る。避難けいこを毎月実施する。保護者や避難場所を含めたけいこを実施する。
2	地域との連携 (幼小の連携)	地域に愛される園を目指して、地域の実情、保護者のニーズ、子どもの実態を踏まえて連携強化する。小学校、保育所等積極的に声をかけ連携を図る。
3	教職員間の協力	乳児・乳幼児、幼児と区分し縦割りの連携を図ると共に全園児を全職員で成長を共に感じ喜び合う職員間のコミュニケーションを通して日々の保育に役立てる。

6、学校関係者の評価

きつずの先生たちには感謝しかありません。他の園では経験できない忍遊遊びや川遊びなど年々子どもたちの成長をそばで感じます。また、保護者も巻き込んだ運動会やわくわく劇団では子ども以上に保護者も楽しませてくれてとてもいい思い出となりました。
ひとみ園長先生の愛のこもった手書きのお手紙や理事長先生の行事を通しての熱い語りなど・・・子どもたちだけでなく保護者も大切にしてくれていることがとても嬉しく感じます。
これからも時代と共に忘れてはいけないものを大切に進化しつづけて下さい。